



木造阿弥陀如来坐像

昭和24年2月18日 国重要文化財指定

像高144.2cm、寄木造 檜材

八幡神社境内の北東にあった阿弥陀堂に安置されていた白米寺伝来の像で、檜材に漆箔を施している右手を上挙げて、左手を膝上に乗せて開き、両手とも親指と人差し指を結ぶ上品下生印を結んでいる。蓮台は蓮肉と華盤のみが旧来のものであるが、白毫や頭部の彩色は後世のものである。また光背を欠いている。制作年代としては平安後期の様式と考えられる。

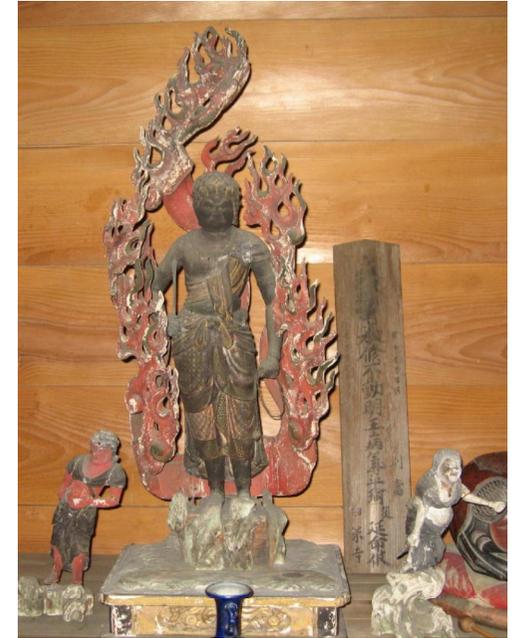


木造地藏菩薩立像

昭和24年2月18日 国重要文化財指定

像高161.0cm、一木造 樟材

かつては樟材に彩色を施していたが、現在はほとんどが剥落している。左手に宝珠を乗せ、右手を下に垂らして五指を伸ばし錫杖を持っているが、宝珠・錫杖・光背・台座・白毫は後世の補足である。彫眼で、面相は全体的に中央に寄ったように造られている。左の膝から下の衣紋には衣のひだとひだの間に小さなひだを彫り込んでいるほんぼ翻波式衣紋がとられており、下半身に安定感を持たせた像様とともに平安時代中期の作風がうかがえる。



木造不動明王立像

昭和44年3月28日 奈良県文化財指定

像高51.5cm、寄木造 檜材

本像の伝承については定かではないが、白米寺の遺像と考えられる。二尺足らずの小像であるが、堂々たる量感を感じさせる彫技があり、京都市左京区花脊の峯定寺所蔵の重要文化財木造不動明王立像(平安後期)の系列に入る作例と考えられ、截金や構造などから鎌倉時代の早い時期の制作と見られる秀作である。



難波から

近鉄「難波」駅－「西大寺」駅－（橿原線各駅停車）－「結崎」駅下車 徒歩5分

天王寺から

近鉄「阿部野橋」駅－「橿原神宮前」駅－（橿原線各駅停車）－「結崎」駅下車 徒歩5分

京都から

近鉄「京都」駅－「西大寺」駅－（橿原線各駅停車）－「結崎」駅下車 徒歩5分

※駐車場はありません、鉄道をご利用下さい。

周辺地図

